

写

27生産第2424号
平成28年1月15日

北海道農政部長
地方農政局生産部長 } 殿

生産局園芸作物課長

大雪による果樹等の被害防止に向けた技術指導の徹底について

気象庁の予報によれば、発達した低気圧の通過により17日夜から18日にかけて西日本から東北地方の広い範囲で雨となり、東日本や東北地方の内陸や山沿いでは湿った雪が降る見込みであり、18日には北日本を中心に暴風が予報されている。さらに、この低気圧は19日には北日本付近に達し、冬型の気圧配置が強まり、北日本と東日本・西日本の日本海側では、雪を伴った非常に強い風が吹いて大雪となり、太平洋側でも局地的に大雪となることが予報されている。

このため、今後の気象状況に十分留意するとともに、低温と大雪に対する被害を防止するため適切な対応が行われるよう、「積雪及び寒害に伴う農作物等の被害防止に向けた技術指導の徹底について」（平成27年12月10日付け27生産第2257号、27政統第359号）を踏まえつつ、下記の事項に十分留意の上、貴局管内の*（都県）に対し、迅速かつ適切な技術指導の徹底を図られたい。

施行注意：北海道宛は道内、農政局宛のうち、*（ ）について、関東農政局宛は（都県）、近畿農政局宛は（府県）その他は（県）とする。

記

【共通事項】

降雪時は、

- ①見回りをする際には一人では行かない
- ②すべりにくい靴を履く
- ③倒壊の恐れのある施設には近づかない
- ④ハウスの雪降ろし等を行う際には複数人で作業を行うなど、人命優先の対策に努める。

【果樹】

1 雪害対策

(1) 事前準備

積雪の多い地域においては、早期のせん定、支柱等による枝の補強、果樹棚の補強等に努める。特に幼木や改植後まもない若木については、結束して樹冠を縮める、支柱により接木部を補強する等の対応を講じる。

積雪時の野そ被害を低減するため、樹幹へのプロテクター等の巻きつけ、忌避剤の塗布や散布、殺そ剤の投与等の対策に努める。

(2) 降雪・積雪中の対策

安全が確保できる範囲で、樹園地を見回り、除雪を行う。雪に埋まった枝は沈下しないうちに可能な限り掘り起こす。掘り起こしが困難な場合、スコップで雪に切れ目を入れたり、樹冠下の雪踏みを行う。

園芸用施設を使用している場合は、施設内の温度を高め、積雪の自然落下を促進するほか、ハウスの屋根の補強材や支柱等を設置する。また、安全が確保できる範囲で、屋根の雪下ろしや施設周辺の除雪を行う。

施設の破損、倒壊等が生じた場合には、安全に留意しつつ、早急に修復を行いハウス内の温度の確保に努める。

2 寒害対策

- (1) 寒害の恐れがある場合は、寒冷紗や不織布等で被覆し、樹体が直接寒風にさらされることや樹体の凍結を防ぐ。特に幼木や改植後まもない若木は寒さに弱いいため、コモや不織布等で樹体を保護する等の防寒対策に努める。凍害を受けやすいくりについては、「クリ凍害の危険度判定指標と対策技術マニュアル」(平成26年10月30日)(http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/924c632d0a5a95bbdf6cc398dab5688f.pdf((国研)農研機構ホームページ参照))を踏まえ、凍害リスクの軽減に努める。

また、かん水が可能な場合は、土壌の過乾燥を防止するようにかん水を実施する。

- (2) 防風垣や防風網を設置している場合は、裾の部分を巻き上げ等を行い、冷気の停滞を防止する。また、敷わら栽培では、地表面での熱移動が妨げられるため、敷わらの全面被覆は避ける。
- (3) 今後、収穫・出荷期を迎える中晩柑等においては、異常低温が予想される前に収穫適期の果実を収穫する。また、寒害等によりヤケ、苦味、す上がり等の果皮・果肉障害が発生した場合には、出荷時に、これらの果実の混入防止に細心の注意をはらう。
- (4) 冬期に開花から結実を迎えるびわについては、通常の袋掛けの上にアルミ蒸着

袋を重ね掛けする等、幼果の保温対策に努める。

【園芸用施設】

平成27年1月から降雪や降雪後の降雨によりパイプハウスが倒壊する恐れがある場合（積雪荷重が概ね20kg/m²を超えると予想される場合）には、気象庁からその旨の気象情報が発令されることとなった。

普段、積雪が少ない地域も含め、これらの気象情報を注視し、一般社団法人日本施設園芸協会作成の「平成26年2月の大雪被害における施設園芸の被害要因と対策指針」（<http://www.jgha.com/files/houkokusho/26/yuki.pdf> 以下、「指針」という。）を参考に、作業の安全確保と施設及び施設内作物の保護に万全を期されたい。

1 事前の対策

- (1) 谷樋など荷重が集中すると思われる部分を特に補強する。
- (2) 基礎部が腐食している場合は、パイプの交換や補強資材により、強化を図る。
- (3) 基礎の沈下を防ぐため、谷樋からのオーバーフロー防止対策を講じる。

等、施設の保守管理と構造強化に努める。

2 降雪直前からの対策

指針のチェックリストを活用して、保守管理を確認するとともに、積雪前に内部被覆を開放して融雪対策に努める。

最新の気象情報による積雪深がハウスの耐雪強度を大きく上回る場合は、被覆資材を切断除去することで施設への積雪を防ぐ。